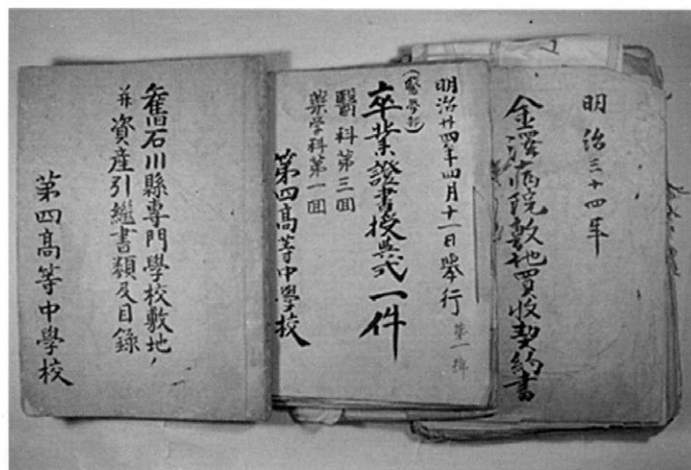


金沢大学資料館だより

No.23 Jan.9.2004



大学史料：前身校文書資料

--目次--

大学アーカイブズの役割と活動	…2
資料館概要～その2～	…5
資料館彙報	…8

●アーカイブズとは

そもそも“アーカイブズ”とはなにか？アーカイブズ（archives）は，“アーカイブ”または“アーカイブズ”とも呼ばれ、歴史的・文化的・学術研究的な価値のある記録史料やその管理保管庫という意味である。一般に文書館、史料館などを指すものとされる。図書館（library）や博物館（museum）とは、主な対象資料や役割が基本的に異なるものといえよう。大学アーカイブズは、大学の記録史料の収集・保存、大学史の調査研究、広報・教育活動などを継続的に果たすものと規定できる。欧米の大学では、libraryやmuseumと同様にarchivesが設置され活動している。日本の代表的な大学アーカイブズである京都大学大学文書館の西山伸は、「現在に至る大学の機関としての営みを表す記録を適切に管理することで、大学内外の研究・教育および大学の管理運営に寄与し、そのことを通じて社会に貢献すること」と大学アーカイブズを積極的に位置づけている。アーカイブズに専属して、記録史料を専門的に扱う者をアーキヴィスト（archivist）と呼ぶ。とくに、非現用史料の整理選別・保存に関する技能などを取得していることが特徴である。現在の日本では、司書や学芸員の資格養成・認定制度は整備されているが、アーキヴィストについてはいまだ不十分な状況である。国立公文書館など一部の機関でアーキヴィストの短期研修を開始しているが、今後は国家資格としての有用性を認めその養成制度を社会的に確立することがアーカイブズの実質的な普及につながるものと考えられる。

●東京大学史史料室の活動

東京大学史史料室は、1987年に『東京大学百年史』全10巻（1984～1987年）の刊行終了を受けて、百年史編集関係史料の整理・保存を目的として学内措置で事務局機構上に設立されたものである。東北大学記念資料室（1963年）とともに、現在まで日本の国立大学アーカイブズ関係施設の牽引役をつとめてきたといえよう。東京大学史料の保存に関する委員会（全学）のもと、室長1名（兼務）・専任教員（事務兼務）1名・非常勤職員4名（週5日勤務の事務1名・週2～3日勤務の教務3名）が現在室員である。主な業務は、次のとおりである。1960年ころまでの文部省往復などの非現用行政文書（公文書）や歴代総長などの大学関係者らの個人文書（私文書）、その他学内外の刊行物、写真アルバム類などの収集史料の整理・保存が挙げられる。また、史料室の所蔵史料については目録整理が完了したのから随時一般の利用に供することとしている。閲覧室のスペースや対応する人員などの理由から、当分の間は火曜日と水曜日の週2日学内外の閲覧利用に応じている。史料の閲覧対応に加え、毎年250程度の照会がありそのレファレンス業務も軽視できない。東京大学の赤門や三四郎池の由来などの基本的な事項から、元大学教職員の活動に関する具体的な事項まで、多種多様な内容に富んだ照会に対して、できるだけ照会者の立場で回答することを旨とする。当然のことながら、個人情報の保護や大学自治の原則に十分留意している。史料室では、より一層の東京大学史の調査研究をはかるために独自の調査研究プロジェクトを企画しその運営にあたってい

る。『東京大学の学徒動員学徒出陣』東京大学出版会（1997年）は、その一端である。貴重な史料の紹介や大学史研究論などを取り上げた『東京大学史史料室ニュース』（年2回）や『東京大学史紀要』（年1回）といった定期刊行物の編集発行も継続して行っている。その精神から、特定の大学関係者に限らず問題関心を共有できる者であればひろく執筆の門戸を開放している。しかし、現在の史料室にもいくつか重要な課題が残されている。機構上の安定的な位置づけはいかにすべきか。大学の独立行政法人化とも絡み、史料室の器・予算・人はどうなるのか。また、史料室の受け入れ史料をどのように特徴・範囲づけるのか。規定された保存期間が終了した非現用の行政文書の本格的な受け入れはどうすべきなのか。東京大学では、「保存期間が満了した行政文書については、指定施設の長と協議のうち、移管することができるものとする。2指定施設への移管については、別に定める。」（文書管理規程第33条）とあるが、実際はどうか。「保存期間が満了した行政文書は、京都大学大学文書館へ移管するものとする。」（京都大学における行政文書の管理に関する規程9条）といった京都大学のように、もっと踏み込んだ大学行政文書管理規程の整備が必要なのではないだろうか。

●『金沢大学五十年史』の編纂

戦後半世紀以上を経過した現在、国立大学も時代や社会の要請を受けて独立行政法人化へと大きく変化を遂げようとしている。なぜ、どのようにして生まれたのかという新制国立大学成立の意味を、歴史的に改めて冷静に問うことはきわめて重要であろう。金沢大学の成立は、一面的な中央政策上の要請からではなく、第四高等学校や石川師範学校などの多

様な旧制高等教育機関の包括・統合（前身校史の継承）といった地元地域社会のドラマそのものである。大学の個性とは、歴史的に形成されたものに他ならない。『金沢大学五十年史』は、五十年史編纂委員会・編集委員会（全学）の組織のもと部局編が1999年6月に、写真集が1999年8月に、通史編が2001年8月に刊行された。自己点検評価の指標ともなり、見劣りしない歴史書として編纂されたものである。他の国立大学史編纂と比べ、比較的短期間の内に上記の編纂を完了したことは後世の歴史的な評価を必ず得るものと思われる。事務局の支援協力を受けて、編纂に従事する専任室員を有する五十年史編纂室を組織運営したことはポイントである。五十年史編纂室は、とくに従前明らかにされなかった大学公文書レベルでの前身校・金沢大学創設関係史料の調査・収集に尽力したといえる。『第四高等学校関係資料リスト』（1999年）は、その成果の一端である。石川師範学校・金沢高等師範学校・第四高等学校・金沢医科大学などの貴重な前身校関係史料の多くは、恒常的な保存を期して現在関係事務部局から資料館へ移管されはじめている。かつて多くの国立大学で大学史編纂後に貴重な大学史料の散逸がみられたが、同様の過ちは金沢大学では生じる危険はないものと信じる。上記のとおり五十年史の編纂はおおむね完了したが、資料編は未刊とされ五十年史関係史料のデータ目録化も課題として残されている。

●金沢大学への提言

これからの大学アーカイブズの役割は、狭義の大学史料の収集・保存にとどまらない。大学史の調査研究、レファレンス、情報公開、史料展示、学生・教職員・市民対象の教育、アーキヴィストの養成などといった広義の役

割も必要とされるであろう。そのことは、2003年5月から内閣府で継続して開かれている「歴史資料として重要な公文書等の適切な保存・利用等のための研究会」でも、新たなアーカイブズの役割として提言されている。金沢大学は、大学の独法化をひかえた現時点では大学アーカイブズの組織運営に向けて all or nothing の二者択一の選択はすべきではないと考える。規程・組織・施設・人員・予算の面から、大学アーカイブズの理念と実際のバランスをできる限り金沢大学の現実にそくして漸進的に考慮することが大切である。金沢大学の重要な情報・史料を廃棄喪失することなく、恒常的に次代へいかに整備保存していくのか、金沢大学としての全体的な見取り図（金沢大学モデル）を模索検討することがもとめられる。非現用の行政文書を現状のままにするのか。現在の金沢大学資料館の組織活動をいかに強化・支援していくべきか。五十年史編纂室の業務をいかに引き継いでいくのか。大学アーカイブズが、広報・情報公開といった大学行政の担当事務部局といかに連携協力していくかもきわめて重要である。同窓会・生活協同組合・教職員組合などの大学関連団体との関係も同様である。相互理解・信頼を獲得するには、相応の活動と時間が必要であろう。地道な努力に勝る王道はない。（本稿は、平成15年10月24日に金沢大学資料館公開講演会で報告した内容に、若干の加筆修正を補ったものである。）

* 東京大学史史料室専任室員、北陸史学会会員

平成15年度金沢大学資料館特別展 「大学文書館への招待」

平成15年10月1日～11月28日

同展では、大学文書館と大学文書館で扱う資料（＝大学史料）をとりあげた。文書資料、写真資料、「もの」の資料の展示をとおして、大学史料とは具体的にどのようなものかを紹介した。

展示内容としては、前身校・大学創設期の行政文書、使用されていた実験機器、看板、公印、前身校の写真等。入館者541人。



平成15年度金沢大学資料館公開講演会 「大学アーカイブズの役割と活動」

日 時 平成15年10月24日（金）

場 所 事務局 6 F 大会議室

参加者数 44名



金沢大学資料館概要～その2～

金沢大学資料館は平成15年度に創設15周年を迎えました。『資料館だより21号』にて資料館の現状・沿革・組織・施設を紹介しました。今回はその続きとして資料館の活動・収蔵資料・刊行物を紹介します。

活動

入館者数

(単位：人)

年 度	学 生	教職員	一 般	総 数	備 考
平成4年度	253	20	178	451	
平成5年度	97	10	25	132	
平成6年度	204	20	65	289	
平成8年度	327	39	17	383	
平成9年度	165	24	15	204	
平成11年度	369	83	2,924	3,376	50周年記念展示
平成12年度	1,029	249	545	1,823	
平成13年度	984	178	1,161	2,323	
平成14年度	1,321	79	876	2,276	
合 計	2,444	445	3,769	6,658	

※平成7年度、10年度は特別展を開催していないため入館者なし

※平成12年度から常時開館

特 別 展

年 月	特 別 展 名	入館者数	主催・共催の団体名
平成5年1月18日～ 1月29日	資料館収蔵資料と現代版画	451人	資料館
平成5年10月4日～ 10月15日	アラビア半島の遺跡を掘る	132人	文学部考古学研究室・ 資料館
平成6年10月3日～ 10月14日	金沢大学教育学部美術研究室 45年展	224人	教育学部美術研究室
平成8年2月26日～ 3月1日	金沢大学教育学部美術研究室 卒業・修了制作展	266人	教育学部美術研究室
平成8年4月1日 ～4月3日	旧制四高の物理機器展	110人	資料館
平成8年6月10日～ 7月6日	アラビア湾岸の交易都市 ハレイラ島の発掘展	365人	文学部考古学研究室・ 資料館

平成8年10月28日～ 11月1日	小中屋文書 白山麓幕府領の 支配と生活展	711人	資料館・文学部博物館 実習
平成9年6月23日～ 6月27日	小中屋文書 手習い本に見る 須納谷村の教育	117人	資料館・文学部博物館 実習
平成9年11月5日～ 11月7日	再興九谷松山窯展	87人	文学部考古学研究室・古代学 協会北陸支部・資料館
平成11年5月29日～ 6月11日	金沢大学創立50周年記念展示	2,800人	実行委員会・ 附属図書館・資料館
平成11年11月1日～ 11月5日	Hands on! 四高物理のある 風景	121人	資料館
平成12年4月10日～ 4月21日	金沢大学資料館へようこそ	373人	資料館
平成12年10月10日～ 10月20日	書籍展 小泉八雲と教え子の 四高教授たち	260人	資料館
平成13年4月9日～ 4月20日	金沢大学資料館へようこそ	235人	資料館
平成13年11月1日～ 11月16日	金沢城と金沢大学	125人	資料館
平成14年4月8日～ 4月19日	金沢大学資料館へようこそ	442人	埋蔵文化財調査センター・ 資料館
平成14年5月24日～ 6月14日	四高物理機器展	300人	資料館
平成14年4月7日～ 5月30日	没後五十年記念 暁鳥敏展	731人	附属図書館・資料館
平成15年10月1日～ 11月28日	大学文書館への招待	541人	資料館

公開講演会

年 月	講演会名	講師名	参加者数
平成9年11月14日 12:50～15:00	古文書の修復について －附属図書館所蔵『成瀬日記』 の修復を中心として－	金沢文化財保存研究所 川口法男	38人
平成10年12月11日 14:30～16:30	染織品に於ける文化財修理 －能装束及び京都祇園祭 山鉾懸装品について－	修復家 川口順子	64人

平成11年11月5日 10:30~12:00	ハンズ・オンの魅力 -children's museum の現場から-	ハンズオンプランナー 染川香澄	64人
平成12年10月17日 13:30~15:00	小泉八雲と教え子の四高教授たち	小泉八雲研究家 染村絢子	53人
平成13年11月2日 13:00~14:45	金沢城跡調査の成果と課題	石川県立歴史博物館 吉岡康暢	31人
平成14年6月6日 16:00~17:15	四高時代の物理教育と物理機器	金沢大学工学部 田中一郎	24人
平成15年10月24日 13:15~15:00	大学アーカイブズの役割と活動	東京大学史史料室 谷本宗生	44人

収蔵資料

文化史資料

第四高等学校旧蔵考古学資料，金沢城跡出土資料，一乗谷朝倉氏遺跡出土資料，井上鋭夫
収集資料，暁烏敏陶磁器コレクション，西村コレクション，小中屋文書など

自然史・科学技術史資料

岩石試料（守屋以智雄コレクション），第四高等学校物理機器，物理機器カタログなど

大学史料

扁額，前身校関係資料，各学部実験機器，保存期間が満了した行政文書など

刊行物

金沢大学資料館だより	2200部	年2回発行	平成元年度創刊
金沢大学資料館紀要	500部	隔年発行	平成11年度創刊
金沢大学資料館資料目録	500部	不定期発行	平成15年度創刊

歴代職員

平成元年	山本 陽子	平成9年	在田 則子，橋爪 直子
平成2年	山本 陽子，吉野 理香	平成10年	在田 則子，大鋸谷尚子
平成3年	吉野 理香，在田 則子	平成11年	在田 則子，宮 さやか
平成4年	吉野 理香，在田 則子	平成12年	在田 則子，田嶋万希子
平成5年	在田 則子，松本 洋子	平成13年	在田 則子，田嶋万希子
平成6年	在田 則子，橋爪 直子	平成14年	在田 則子，田嶋万希子
平成7年	在田 則子，橋爪 直子	平成15年	在田 則子，田嶋万希子
平成8年	在田 則子，橋爪 直子		

資料館彙報（平成15年8月～平成15年12月）

8月6日	滋賀県立虎姫高等学校生徒来館	10月15日	石川県立金沢錦丘高等学校生徒来館
8月9日	オープンキャンパスにつき高校生来館	10月24日	平成15年度公開講演会「大学アーカイブズの役割と活動」
8月21日	福井県立大野東高等学校生徒来館		石川工業高等専門高等学校生徒来館
8月26日	日中平和友好条約締結25周年記念訪日団江蘇省人材協力代表団来館	10月27日	第四高等学校医学部・金沢医科大学等関係資料の搬入
	岐阜県立看護大学職員来館	11月5日	石川県立飯田高等学校 PTA 来館
9月4日	法文学部法学科第一期生来館	11月10日	タイ友好親善団来館
9月18日	富山県立富山いずみ高等学校 PTA 来館	11月11日	北信越地区国立大学図書館協議会出席者来館
9月16日	国際交流課から国際交流関係資等を搬入	11月12日	福井県立武生東高等学校 PTA 来館
9月30日	1階収蔵庫に書架を設置	11月14日	資料館委員会（平成15年度第3回）
10月1日	平成15年度資料館特別展「大学図書館への招待」を開催（11月28日まで）	11月20日	石川県立金沢桜丘高等学校生徒来館
10月6日	馳浩氏（文部科学大臣政務官）来館	11月27日	石川県立飯田高等学校生徒来館
10月8日	新潟県立糸魚川高等学校生徒来館	11月28日	石川県立門前高等学校 PTA 来館
10月14日	フルブライトメモリアル基金米国教育者訪問団来館	12月9日	国際交流課から外国機関表敬訪問時の贈呈品を受託
		12月18日	山口大学経済学部職員来館
		12月22日	資料館委員会（平成15年度第4回）

資料提供のお願い

金沢大学および下記の前身校に関する資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ資料館へご寄贈くださいますようお願いいたします。ご寄贈いただいた資料は、貴重な歴史資料として永く保存・活用させていただきます。

金沢医科大学・金沢医科大学薬学専門部・第四高等学校・石川師範学校・金沢工業専門学校・金沢高等師範学校・石川青年師範学校、ほか。

また、今年度退官・転出される先生方で、お手持ちの文書資料等を資料館にご寄贈くださる方はご一報下さい。よろしく願いいたします。



金沢大学資料館だより 第23号

館長 笠井 純一（文学部教授）

館員 在田 則子

館員 田嶋万希子

〒920-1192 金沢市角間町（附属図書館内）

金沢大学資料館

Tel (076)264-5215 Fax (076)234-4051

E-mail museum@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

発行日 平成16年1月9日

編集発行 金沢大学資料館

ホームページ URL

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~shiryu/index.html>